

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成28年度	事業者名	公立大学法人滋賀県立大学
補助事業名	琵琶湖水草を材料としたメタン発酵消化液の改質による高付加価値品の開発、およびその実用化に向けた計画策定		
補助事業結果概要	<p>本研究によって、水草のメタン発酵残渣を膜濾過法によって効果的に固液分離できることが明らかになった。発酵残渣中の細菌類もほとんどが濾過されて液分には移行しないことが分かった。ただし、液分残渣中の溶存態リンが膜濾過によって除去されることで、ここで得られた液肥では、微細藻類も葉物野菜も生育が不十分であった。</p> <p>他方、関係各所へのヒアリングから事業化へ向けてのいくつかの問題点を整理することができた。プラント用地の選択には問題点が散見されるが、特に滋賀県との連携が不可欠であることが分かった。家畜飼料のサプリメントとしてクロレラの有用性と採算性が確認され、液肥製造方法の確立が、事業全体の採算性を担保する上で重要であることを再認識できた。</p>		
<p>本年度（令和3年度）の状況</p> <p>・技術開発等の状況を含む</p>	<p>昨年度に採択された地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（Satreps）の「ナイルの源流エチオピア・タナ湖で過剰繁茂する水草バイオマスの管理手法と有効利用プロセスの確立」を継続して実施しているところである。エチオピアのタナ湖で過剰繁茂しているホテイアオイをメタン発酵することによって得られる発酵消化液を使った微細藻類（スピルリナ）の培養および野菜の栽培に関する基礎的な実験を行った。実験は順調で、ホテイアオイを用いた循環利用について事業化に向けた取り組みを進めつつある。</p>		
備考	<p>本年度（令和3年度）の状況は、Satreps 事業によって行われた内容を含む。</p>		